

がん診療 あさひ

9号
2021年8月
発行

～がんと診断されたり、治療を受けるときに、役立つ情報をまとめました～



放射線治療スタッフ

放射線科（治療部門）は医師、看護師、物理士、診療放射線技師、事務からなる腫瘍治療チームです。病気の治療として放射線治療が適している場合に各科からの依頼を受け、治療を有効で滞りないものにするというプロジェクト実行を目指して力を合わせます。

全身の一般的な照射を担うONCOR（オンコア）が引退し、新装置のTrueBeam（トゥルービーム）が治療棟増設・検証を経て2021年4月から稼働しています。TrueBeamは通常照射と高精度治療ができる装置で、本館の高精度治療装置Vero4DRTとそれぞれ違う特性を活かし、2台で毎年数百人を治療していきます。

放射線科（治療部門） 太田 さや子

当院は、「地域がん診療連携拠点病院(高度型)」に指定されています。



地方独立行政法人
総合病院 国保旭中央病院

〒289-2511 千葉県旭市イの1326 TEL.0479-63-8111 (代) FAX.0479-63-8580

www.hospital.asahi.chiba.jp

TrueBeam (トゥルービーム) について



写真提供／Varian Medical Systems, Inc.

TrueBeamは通常照射と高精度治療を行う装置です。実現可能となった技術は次のようなものがあります。

- 強度変調放射線治療（IMRT）；腫瘍の形状に合わせて照射野の形や放射線の強度を変えて行う治療。当院では2014年から実施し、治療開始までの手間は要しますが、技術の進歩で照射の高速化も実現しつつあります。
- 定位放射線治療（SRT）；小さい病変に多方向からビームを集中させる治療。かつては金属フレームを頭蓋骨にピン固定しましたが、樹脂の固定具で頭部のほか胸腹部も治療可能となりました。
- イメージガイド（画像誘導）；以前は透視画像の骨が頼りでしたが、直前の位置情報を取得して標的や正常臓器を照合できるようになりました。
- 乳房体表マーキング省略；体表面検出器の位置照合で、治療中皮膚インクに煩わされなくなります。



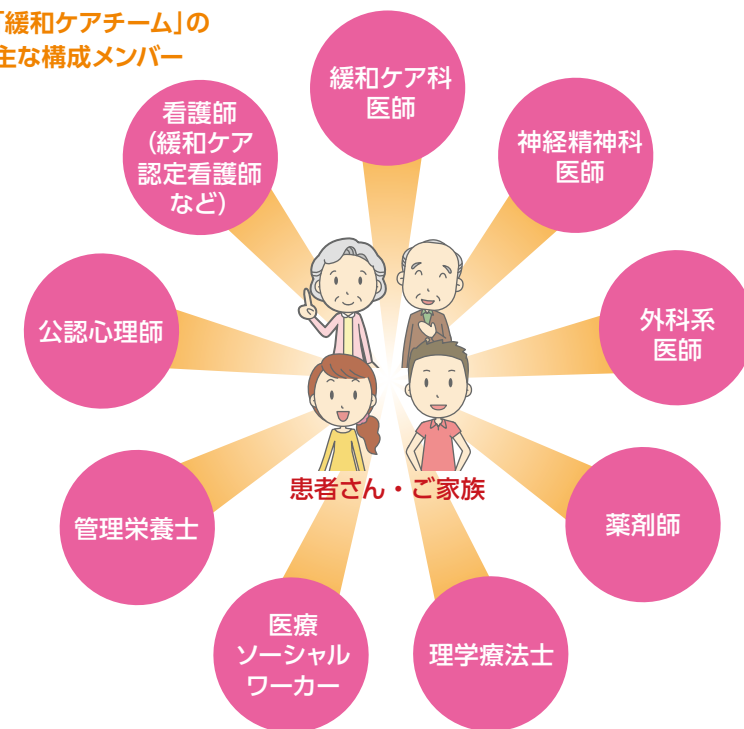
放射線科（治療部門） 太田 さや子

緩和ケアチーム について

- 今の日本では、がん診療に携わっている医療従事者であれば、「鎮痛薬の開始（医療用麻薬を含む）」や「相談部門への紹介」など、ある程度の「基本的な緩和ケア」は行うことができます。しかし、実際に多くの患者さんが苦痛を感じている、「鎮痛薬の調整に難渋する痛み」「複雑な問題が背景にある不安」「自分の存在が危うくなったと感じる時のつらさ」などに対しては、「急を要する対応」や「複雑な対応」が必要となります。そのため、最近では、がん診療を行っている病院を中心として、全国の多くの病院に、多くの専門職種からなる「緩和ケアチーム」が設置され、いつでも「専門的な緩和ケア」が受けられるようになっています。
- 当院の「緩和ケアチーム」には、緩和ケア科医師、神経精神科医師、外科系医師、薬剤師、理学療法士、医療ソーシャルワーカー、管理栄養士、公認心理師、看護師（緩和ケア認定看護師など）が参加しており、「患者さんのために今できること」を一緒に考えています。
- 体や心のことで何かお困りでしたら、主治医や担当看護師を通じて「緩和ケアチーム」にご相談ください。

※なお、本来、緩和ケアの対象は「がん」などの悪性疾患に限らないのですが、当院では現在、対象を「がん患者さん（当院に通院中、あるいは入院中）のみ」とさせていただきますので、ご相談される際にはご注意ください。

「緩和ケアチーム」の 主な構成メンバー



がん相談支援センター

「がん」について、お気軽にご相談ください

「がん診療連携拠点病院」には「がん相談支援センター」が設置されています。

当院では、社会福祉士・看護師が相談に応じます。必要に応じて、医師・薬剤師・管理栄養士等と連携して、お話を伺います。

〈相談例〉

- がんと言われて頭が真っ白になってしまい、誰かに話を聞いてほしい。
- どのように治療に取り組んだらよいのでしょうか？
- がんの治療ってどのくらいお金がかかりますか？
- 仕事を続けるのは無理でしょうか？
- 介護が必要になったらどうしますか？
- 緩和ケアについて知りたい。

など

セカンドオピニオンについては、「紹介患者センター」で相談に応じることができます。（医療機関検索・相談方法・費用・予約について）

がん相談支援センター 2号館1階 医療連携福祉相談室
時間／月～金（祝日・年末年始を除く）8:30～17:15

相談は無料です。

※なるべく予約していただくことをお勧めしています。

※当センターで医師と直接お話をすることはできません。社会福祉士・看護師がお話を伺い、担当医にご相談内容をお繋ぎすることは可能です。

がんと診断されても、すぐに仕事をやめないでください！

—— がん患者さんの就労支援について ——

がん治療と仕事を両立している患者さんはたくさんいます。当院の『がん相談支援センター』には、がんの治療と仕事の両立について相談できる『両立支援コーディネーター』がいます。がんと診断されて、すぐに退職を決めるのではなく、担当医や産業医とも相談しながら治療計画に合わせて、働き続ける方法を一緒に考えましょう。まずは担当医・看護師にお声かけください。

がん患者サロン 乳がん患者サロン 開催について

がん患者サロン

毎月第3月曜日
14:00～16:00
参加費 無料
事前申し込みは不要です。

乳がん患者サロン

毎月第3木曜日
14:00～16:00
参加費 無料
事前申し込みは不要です。

※今後の開催予定につきまして、詳細はお問い合わせください。

放射線治療

放射線治療とは？

超高齢社会に突入した日本ではがん罹患が2人に1人と高頻度になり、知り合いが治療をしたという人も増えました。発がんは長年の間に人体の細胞をコピーし増殖する際エラーが生じることが原因で、他の死因（1950年代までだと結核など）が減る一方、長寿と共に増える宿命です。

放射線治療はがん細胞の殺傷手段として手術・薬剤と並び、時に併用します。そのツールはメスや薬に代わりビーム、即ちX線や電子線です。

放射線治療は臓器の形態、機能が保持できることが大きな特徴です。基本的に通院して毎日10分くらい照射するもので、他の方法が無理な場合の選択肢となり得ます。また腫瘍進展に伴う症状の緩和にも有用で幅広く利用されるようになりました。

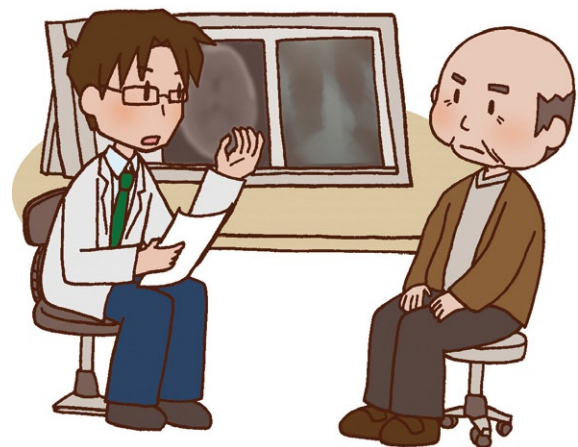
目指す方向

がん細胞を殺すには高線量を照射するほど効くわけですが、正常な細胞が回復できない損傷を受けることになります。がんに対してはなるべく強く、しかし周囲にはなるべく優しく、例えるなら豆腐の上のハエたたきのような矛盾に挑んできたのが治療の歴史です。

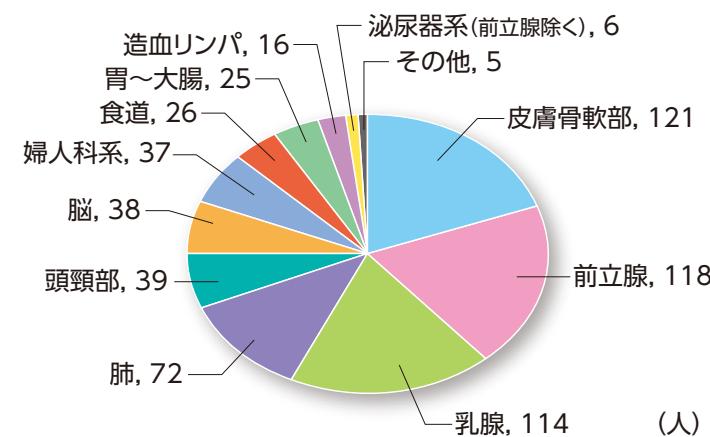
過去・未来

放射線腫瘍学の源流は約120年前のレントゲンによるX線、およびキュリー夫妻のラジウムから発するガンマ線の発見です。この有名な現象を多くの人々が磨き上げ、目の前で現代人を助けているのです。

放射線科（治療部門） 太田 さや子



当院の放射線治療 新規患者数(2020年: 合計617人)



当院の治療や医療のご紹介

多面的な治療で、患者さんを支えます

手術療法について

手術療法とは、がんを切り取って治す治療法です。がんを完全に治すための治療法として、ほとんどの場合手術療法が選択されます。

手術はからだに負担のかかる治療法ですので、これになるべく軽くするためにいろいろな手術が開発されています。胃カメラなどの内視鏡による手術では、皮膚にメスを入れることなくがんを切除できます。また、腹腔鏡や胸腔鏡による手術では、従来の開腹や開胸による手術に比べてずっと小さな傷でがんを切除することができます。

現代の手術療法は、チーム医療として行われます。たとえば、手術に加えて抗がん剤や放射線を併用する場合は、外科・内科・放射線科が一緒に治療にあたります。また、術前の準備段階から術後の回復期まで、外科医・麻酔医・看護師・薬剤師・理学療法士など多くの職種の人たちがチームとして診療に加わり、患者さんが安全に手術療法を受けられるような体制が作られています。

外科 永井

患者さん

緩和ケアセンター 齋藤

放射線治療について

治療の特徴

X線や放射性物質が出すビームを利用して、手の届かないところに治療ができるという特徴があります。各診療科、画像診断部門と協力して問題を見つけ、解決を目指しています。

- 外照射
 - 一般的な外照射（ほぼ全身が対象で乳房温存療法、食道癌、骨転移など）
 - 高精度治療 IMRT 強度変調放射線治療（前立腺癌など）、定位放射線治療（脳腫瘍、肺癌、肝臓癌など）
- 腔内照射（子宮癌）
- 内用療法 ゾーフィゴ注（骨転移）、ゼヴアリン注（悪性リンパ腫）

放射線科（治療部門） 太田

緩和ケアについて

●「治療」には、「『病気』の治療」と「『症状』の治療」があり、それらは必要に応じて同時に行われます（『病気の治療』が『症状の治療』を兼ねる場合もあります）。『病気の治療』は、副作用などのために、体の具合によってはできなくなることもあります。『症状の治療』は、『病気の治療』をしているかどうかに関係なく、体の具合に応じて「その時にできること」が必ず何かあります。

●「緩和ケア」とは、「病気が分かった時」「『病気の治療』をしている時期」「『症状の治療』が中心となった人生の最終段階」と、病気の種類や時期に関係なく、患者さんや患者さんを支えるご家族が抱えている「体や心のつらさ」を軽くする医療です。

●「緩和ケア」には、「症状の治療（鎮痛薬の調整など）」「様々なケア（看護ケアだけでなく、社会生活や経済面での不安に関する相談なども含まれます）」「療養環境の整備」など様々な関わり方があり、いずれも患者さんの生活の質（QOL）向上につながり、患者さんが自分らしく生きていくことを支えます。

化学療法センターでの治療について

「手術」「放射線治療」と並んで、がん治療の3本柱のひとつに「化学療法」があります。近年、新しい抗がん剤の開発や副作用を軽減する支持療法の進歩などにより、治療効果が向上し、標準化された化学療法が適用されるようになりました。このように有効な化学療法を多くの患者さんが受けるようになり、生活の質（QOL）が重視されるようになったことから化学療法は外来治療が中心となり、安全で質の高い医療の提供の場として化学療法センターが設立され全科の治療がここに集約されています。化学療法センターの病床数は40床（リクライニング8、ベッド32）あり、スタッフはがん化学療法看護認定看護師1名を含む看護師7名と医師1名が常駐しています。1人の患者さんを包括的に支えていく上での治療やサポートの質を高めるために医師、看護師、薬剤師、栄養士、歯科衛生士、リハビリ療法士によるチーム診療を行ない、すべての患者さんに満足していただけるよう心がけています。

化学療法科 中村